

# 安心の設計

お便りは、  
メール [iryu@yomiuri.com](mailto:iryu@yomiuri.com)  
ファクス 03・3217・1960

## 肩の痛み 長引けば手術検討

肩の痛みで苦しむ中高年は多い。肩こりと思って我慢をしていたら、別の病気が原因で、手術が必要になるほど悪化することもある。

読売新聞は、2022年

3月5・4月、

日本肩関節学

会の会員が所

属する993

施設に21年の

治療実績など

を尋ね、25

2施設から回

答を得た(回

答率25%)。

調査対象は、代表的な病

気に絞った。「肩関節周囲

炎(五十肩)」、「腱板断

裂」、「変形性肩関節症」、

「反復性肩関節脱臼」、「胸

郭出口症候群」の五つだ。

一覧表には、新規患者の

## 病院の実力

236

総数が150人以上の施設(該当がない県は最多)を掲載した。手術総数と人工関節置換術、理学療法士らリハビリ専門職による保存療法の実施状況も示した。

肩の関節は、肩甲骨の浅いくぼみ「関節窩」で上腕骨を受け止める構造だ。周囲の筋肉「腱板」や靱帯などの支えで滑らかに動く。

回答施設の

新規患者総数計11万8000

0人の内訳は、「五十肩」

54%、「腱板断裂」30%、

「変形性肩関節症」10%の

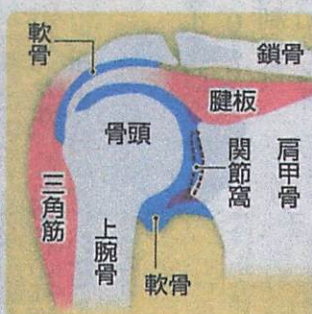
順だった。

五十肩は女性に多い。肩

関節の周囲に炎症が起こ

る。多くは自然に治るが、

### ●肩の構造と人工関節(イメージ)



### ■リバーズ型人工関節



発症から回復までの期間は、半年から数年と差がみられる。

腱板断裂は、男性にやが多い。腕を上げる時に力が入りにくいのが特徴だ。

いずれの病気も、まずは保存療法を行う。安静や薬で痛みを抑えた後、肩のストレッチや筋肉を鍛える運動療法を行う。その上で、

夜も眠れない痛みが続くなど生活に支障がある場合

は、手術を検討する。

変形性肩関節症は、関節の軟骨がすり減った状態で、使いすぎやけが、腱板断裂などが原因となる。進行した場合は、傷んだ関節を人工関節に置き換える手術が選択肢となる。

従来の人工関節は、腱板の断裂がひどい患者には使えなかった。この問題を解決したのが、14年4月に公的医療保険が適用された「リバーズ(反転)型」だ。本来の関節とは逆の形にな

## 人工関節 腱板断裂には「リバーズ型」

っており、腱板がなくても、上腕の筋肉「三角筋」などの力で腕を上げることが出来る。適用には、65歳以上など一定の条件がある。今回の調査では、人工関節手術件数の8割を占めた。

肩の病気の診療では、手術が必要な患者を中心に対応する医療機関もある。受診の前に、保存療法の実施状況を確認しておきたい。

エックス線の画像だけでは、五十肩か腱板断裂かの区別が難しい。心臓や肺の病気が、肩の痛みを招くこともある。日本肩関節学会理事長で東邦大教授の池上博泰さんは「正しい診断には、肩の視診や触診で筋肉や関節の状態を確認することが欠かせません。なかなか治らない場合は、肩を専門とする整形外科医を受診してください」と話している。(久保晶子)

次回(7月20日予定)は 乳がん

①新規患者総数（人）  
②手術総数（件）  
③うち人工関節置換術（件）  
④置換術のうちリバーサ（反転）型（件）  
⑤理学療法上らによる保存療法（実施＝○）

※「」は国立病院機構、「JCHO」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター、「ク」はクリニック、  
は無回答または不明。三重、徳島、宮崎は回答なし。※手術は提携病院で実施、新規患者は既  
●研修クリニックのデータを含む。★県外からのデータ。◇手術総数は新規患者以外も含む。